

「AI革命」が塗り替える東京市場の勢力図

SBG、キオクシア、東京エレクトロン、村田製作所、キーエンスの時価総額が増加

東証プライム 時価総額上位15社のランキング変化：2026年6月1日 vs 2025年末

東証 コード	銘柄名	時価総額 ランキング	時価総額 (兆円)	2025年末 ランキング	ランキング の変化	2025年末 時価総額(兆円)	年初来増減 (兆円)
9984	ソフトバンクグループ	1	48.78	3	+2	25.13	+23.65
7203	トヨタ自動車	2	45.89	1	-1	53.01	-7.12
285A	キオクシアホールディングス	3	39.61	43	+40	5.65	+33.96
8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	4	35.88	2	-2	29.59	+6.29
9983	ファーストリテイリング	5	25.62	7	+2	18.12	+7.50
8035	東京エレクトロン	6	24.83	8	+2	16.19	+8.65
6501	日立製作所	7	23.25	5	-2	22.46	+0.79
8316	三井住友フィナンシャルグループ	8	22.43	6	-2	19.45	+2.99
6758	ソニーグループ	9	21.13	4	-5	24.75	-3.62
6981	村田製作所	10	20.59	35	+25	6.37	+14.22
6861	キーエンス	11	19.51	15	+4	13.79	+5.73
6857	アドバンテスト	12	18.79	10	-2	15.04	+3.75
8058	三菱商事	13	18.26	11	-2	14.45	+3.81
8411	みずほフィナンシャルグループ	14	17.55	12	-2	14.19	+3.36
6098	リクルートホールディングス	15	16.05	14	-1	13.84	+2.21

(出所) JPX (日本取引所グループ) のデータより作成・分析

* 上記は参考情報であり推奨銘柄を目的とするものではありません

日経平均ベースの予想EPS（業績見通し）が急増

3月期決算とガイダンス公表を受け、AI・半導体、銀行などで業績見通し切り上げ

日経平均と予想EPS（5日移動平均）

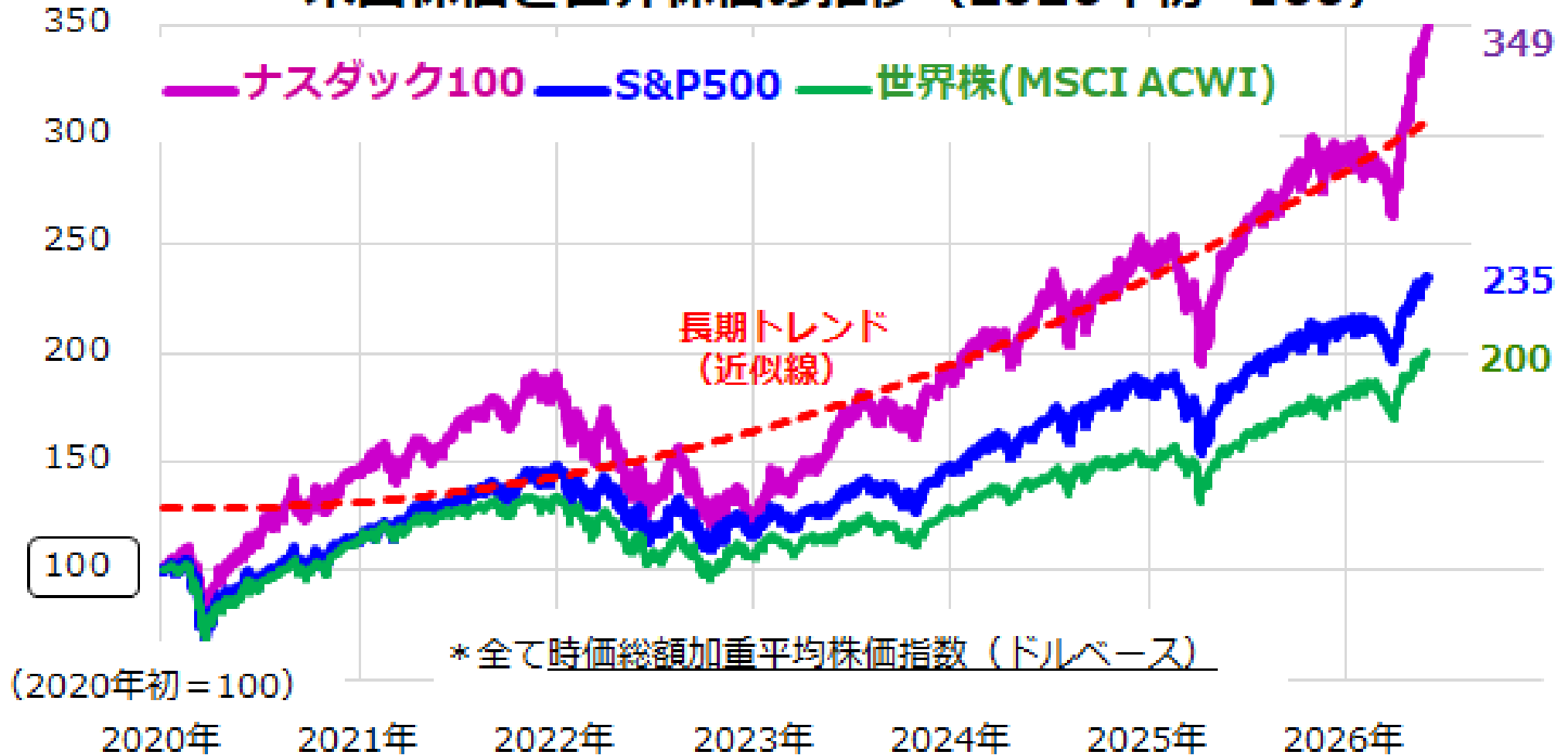


(出所) 日経平均プロフィール、予想EPS（加重平均） = 日経平均採用銘柄の時価総額総計 ÷ 今期予想純利益総額（会社予想+アナリスト予想平均）の5日移動平均

ナスダックの強気相場が米国株高と世界株高を牽引

4月以降のナスダック強気相場は「AI・半導体ブーム」が主導する

米国株価と世界株価の推移（2020年初=100）



AIの進化・利活用による経済インパクト（予想）

「統計にまだ十分映らないAI GDP」と「世界の成長率を押し上げる生産性向上」へ

ピーターソン国際研究所（PIIE） <2026年5月13日公表の論文>

統計にまだ映り切らない「AI GDP」

AIは既存GDP統計の外側で急成長しており、PIIEはAI専用のサテライト勘定整備を提案。データセンター能力、半導体効率、アルゴリズム進歩が複合的に生産量を押し上げている。

結論：AIは「便利な道具」ではなく、GDP統計の測定方法そのものを変える新産業になりつつある。

BofA（バンクオブアメリカ）調査レポート<2026年5月24日公表>

生産性向上への波及は、これから本格化

現時点の経済全体への押し上げは年0.1%程度にとどまるが、業務単位ではすでに大幅な効率化が確認されている。導入・再教育・業務フロー統合が進めば、世界成長率を年間最大1%押し上げる可能性がある。

結論：AI導入力の高い米国・中国が先行し、設備投資・中立金利・企業収益の構造変化を促す。

AI生産量急拡大
年率2,000%超
品質調整済み

AI GDP規模
2,500億ドル
2025年・名目

実質AI GDP
年率2,600%
品質調整後

- AIは米国経済の「独立した成長エンジン」として可視化され始めた。
- 価格低下・性能向上・無償利用の価値は、従来統計に十分反映されにくい。
- 統計整備の遅れは、政策判断・投資判断の遅れにつながる。

世界成長率押し上げ
+1%pt
3.5%→4.5%

業務効率化
開発+55%
文書+40%
生産性向上

企業AI導入率
64%
2025年・世界

- マクロ生産性寄与は年0.1%程度から、モデル改善とコスト低下で最大10倍に拡大する可能性。
- 企業AI導入率は世界64%、北米70%。普及は「実験」から「実装」局面へ。
- 導入速度・規制・人材再教育の差が、国・企業間の生産性格差を広げる公算。

(リスク要因) 米国・イランの「和平合意」が遅れる？

「ホルムズ海峡の実質閉鎖」を巡る早期解除期待が後退し原油相場が反発



(出所) Trading Economics、WTI原油先物相場（過去1カ月の推移）